

7. 学生協議会委員長・担当教員による所感

学生協議会の円滑な運営と課題の適切な検討においては、学生協議会委員長と担当教員のアドバイスは必要不可欠なものであった。以下に、学生協議会委員長と担当教員による事業の振り返りのコメントを示す。

1) 学生の発想はとても面白い

学生の発想はとても面白い。頭の固い私には、到底考えられない面白いアイデアが次から次へと浮かび、それを形にしていく“楽しさ”が今回の取り組みにはあった。異なる分野の集まりだからこそ、ときにはグループ内で意見がまとまらず苦勞したであろう。しかし同時に、異分野への興味もわいたのではないだろうか。考えや学びの違う相手と、互いに認め合い協業していくことが、新たなアイデアを生み出す契機になると私は思う。

(中村美緒 東京大学 高齢社会総合研究機構)

2) 学生協議会に参加して

このたび介護ロボット学生協議会において、モビリティ専隊令和Xの委員長として関わらせて頂きました。今回はサポートという立場のため、自らの役割にもどかしさを感じることもありました。彼らと共に議論し、作業ができれば、それは私たちにとってもより価値ある経験となるのではないかと考えます。学生の皆さんが介護現場を実際にみて、当事者の思いに寄り添い、課題の解決策を立案、具体的な取り組みへと進めていく一体感。誠実な姿勢に深く学ばせて頂きました。異業種他分野で共同するということは、なかなか得られない経験です。今回の経験を活かし、それぞれの分野で活躍なさることをお祈りいたします。このたびは、ありがとうございました。

(露崎雄太 医療法人社団 淳英会 おゆみの中央病院)

3) ガガーリンの冒険

本事業の開始時には、別の事業所に勤務していました。自身の転職時期と重なり、十分なサポートができなかったことを反省しています。特に前半は、学生メンバーとともに飛び立ったのはよいけど、どこに向かっているのか、暗中模索で空中分解の危機もありました。後半に入り視野が開けてくると、学生メンバーが持ち前の実力を発揮し、エンジンの出力が向上したようで飛躍的に発展し、新しい介護ロボットを生み出すところまで辿り着くことができました。皆さんとの打ち合わせは非常に楽しいものでしたし、最後の頑張りには素晴らしいものでした。メンバーの皆さんの成長を実感しつつ、さらなるブースターを発動し活躍されることを願っています。

(田村孝司 株式会社global bridge HOLDINGS)

4) みんなの思いを形に！

この半年間、彼らの想像力と創造力には本当にワクワクさせてもらいました。「それは現実味が…」と思うことも、それぞれが得意とする知識や感性を分かち合い、否定することなく前向きなアイデアを形にする過程に立ち会わせてもらえたことは、『可能性への挑戦』という私自身の学びとなりました。現代の生活ニーズを敏感に捉えて、IT技術や親しみやすいデザインとの融合が図られることにより、固定化された『介護』という領域に新たな可能性が生み出されることを感じさせ

てもらいました。次世代の介護ロボットによって、世代や障がいにとわかれることなく、誰もが楽しみを感じながら笑って過ごせる超高齢社会になることを期待しております。

(佐藤 隼 さがみりハビリテーション病院)

5) チームAmazeとの活動をととして

今回印象的だったのは、学生たちが「利用者の使いやすさ」「楽しく使うには」といった観点で話し合いをしていたこと。コストや機能に目が向きそうになるところを、利用者の視点に立ちアイデアを出し合う姿はみていて楽しくなるものだった。反省点は、学業の合間で忙しいことと管理者のスケジュールリングに関してあげる。到達点がみえづらい中での取り組みは、不安感を与えているように感じた。全体をととして、学生にはよい刺激になったと思う。社会に出ると他分野の職種と時間をかけて話し合う機会も少ないからだ。今回の取り組みでは、学生ながら専門家としての役割を十分発揮してくれた。悩んだ時、Amazeでの経験を思い出し、多視点から物事を考える専門家になってもらえたらと思う。

(高吉亮平 日本作業療法士協会)

6) 価値の創造

介護ロボット学生協議会に参加されました学生の皆さん、1年間の事業活動をととして大きな成果をあげられましたことお慶び申し上げます。「ニーズとシーズの重なりを見出してほかをそぎ落とし育てる」ことで、現場や技術に携わる誰もが考えつかなかった新しい価値を創造する一連の流れを体験できたと信じております。本事業のもう一つの成果は、このような経験を積んだ皆さんが世に生み出されたことです。新しい価値を生む志をもつ仲間と力を合わせ、これからの時代を牽引されることを願っております。

(三枝 亮 神奈川工科大学 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科)

7) デザインの展開方法について

学生協議会では、多数の領域から学生が参加し、専門をまたいだグループワークによってよい成果を出すことができましたと思います。反省点としては、ニーズ抽出と先行技術調査、生活上の不具合に関する生理学的考察とそこから導かれる仮説の設定、無数にある各基盤技術からのコア技術の選定と仕様策定、そして試作と評価というデザインの展開方法を、プロジェクト初期に意識共有できなかったことであります。また、今後のさらなる発展のためには試作の役割、つまり製品やサービスに基盤として実装される仕様の機能を明示することを、十分理解したうえで実働モデルを作製するという、アウトプットの方針を定めることが有効であると考えられます。

(下村義弘 千葉大学大学院工学研究院)

8) 参加学生の様子からコメント

本事業は、学生にとってとても有益なプロジェクトだと思います。積極的にグループワークに参画し、これまで考えたこともない課題に対して取り組むことは、これから社会に出る学生にはよい経験となります。ぜひ、今後とも継続して実施いただきたいと思います。実施のスケジュールは、見学・アイデア・デザイン・試作の期間を考えて少し改善が必要だと思います。また、試作の規模と製作行程・製作時間・携わる学生数の調整があれば、展示会に合わせたタイムテーブルもつくりや

すくなるのではないかと考えます。

(高橋芳弘 千葉工業大学)

【文献】

- 1) 小野栄一：支援機器開発と学生育成. リハビリテーション・エンジニアリング 33 : 58-59, 2018
- 2) 永井翠：ニーズ&アイデアフォーラムに参加して. リハビリテーション・エンジニアリング 33 : 60-61, 2018